

総社市

丸亀市・AMDAと協定へ

南海トラフ 大地震発生時 被災地相互支援で

総社市の片岡聡一市長は26日、香川県丸亀市と国際医療N.G.O「AMDA」（北区）の3者間で災害時相互応援協定を30日に結ぶことを明らかにした。南海トラフ大地震発生時の四国南部の被災地支援を想定し、総社市は「岡山の対岸で行きやすく、比較的被害が小さいと見られ、四国各方面に移動しやすい」という理由で、丸亀市に活動拠点を置くのが目的。

【小林一彦】

総社市にある県立天
大学院が今月30日、北
区で開く公開講座「南
海トラフ災害対応を考
える」に片岡市長と梶
正治・丸亀市長、AM
DAグループの菅波茂
代表が出席するのに合
わせ、講座終了後に協
定の締結式をする。



総社市と香川県丸亀市、AMDAの3者による
災害時相互応援協定について話す片岡総社市長
(前列右)＝総社市役所で

合は県内優先だが、比
較的小さく、瀬戸大橋
などで丸亀市側に移動
が可能な場合は、職員
やAMDAスタッフ、
ボランティアらが宿泊
可能な場所の確保など
を依頼するという。ま
た、どちらかの市の被
災時はお互いに支援す
る。

この日の記者会見で
片岡市長は、2011
年の東日本大震災の岩
手県沿岸部の被災地支
援で、海岸から離れた
遠野市が活動拠点にな
ったことを挙げ、「被
害が大きいと予想され
る四国南部に迅速に動
けるように備えたい」
とした。

総社市は昨年12月に
「大規模災害被災地支
援条例」を施行し、支
援費用を予算化してい
る。AMDAとは国内
外の被災地支援で協力
する「多文化共生に関
する協定」を2009
年に結んでいる。市に
よると、市内を含め、
県内の被害が大きい場